



The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.

発行所:(社)日本アマチュアオーケストラ連盟

発行責任者:森下 元康

〒441 8028 愛知県豊橋市立花町46 光陽ビル3F

電話(0532)33 6885 FAX(0532)33 6875

e-mail:info@jao.or.jp http://www.jao.or.jp/



vol.53

横浜大会を振り返って

横浜大会実行委員会 小磯 智功委員長 インタビュー

1. 無事終わられて大変お疲れ様でした。最初に参加者に一言。

「皆さんご苦労さまでした。ありがとうございました」の一言です。会場の制約、交通アクセスの不便、この種の大会未経験で運営の不慣れと準備不足など全てが厳しい中でしたので、参加者の皆さんのご理解とご協力のおかげでできたと思います。特に裏方を引き受けていただいた近隣オケの裏方担当の皆さんにお礼申し上げます。

2. 横浜大会の特徴としてやはり選曲にあったと思うのですが、コーブランドやグローフェを選んだ思い入れのようなものをお聞かせください。特にコーブランドの「交響曲第3番」はプロを含めてあまり演奏されません。

選曲と指揮者の選任については賛否を含めて種々意見がありました。何回か大会に参加しているメンバーからアメリカものの取り上げが少ないので、この際コーブランドやガーシュインなどの方が「ジャズの街・横浜」に似合うのではと。

神奈川・横浜は基地の街、アメリカ進駐軍軍楽隊のメンバーも昭和20年代30年代には横響に何人か所属していて、そのホルンやクラリネットの名手から指導を受けていた時期もありました。その時代からトムソンのオペラ「4人の聖者」やコーブランド、ガーシュインなどは早くから数多く取り上げていました。

2003年はペリー来航150周年など太平洋の玄関横浜の地域性を考えればアメリカものは「横浜らしさ」でもあることに加えて、こういう大会には管楽器、特に打楽器セクションのメンバーが大勢参加できるもの、普段、単独ではなかなか取り上げにくいものをもとを考えて、ポピュラーな名曲は多々ありますが、挑戦するならシンフォニー、「市民のファンファーレ」で比較的親しまれているコーブランドの3番をメインに取り上げることになりました。

一部に不安や異議はありましたが、アマチュアは常に挑戦する姿勢が大事。身の丈にあったものしか求めないと成長しません。弦セクションからのクレームは承知の上で決定しました。バーバーの「アダージオ」はグローフェ「グランドキャニオン」の管打中心曲の緩和剤として組んだのですが、結果として高円宮殿下の追悼の役割を兼ねることになってしまいました。

冒険でもありましたが、参加者の真摯な取り組みに助けられて結果としては良かったかなと胸をなで下ろしています。

3. 演奏は大変熱演でよかったと思うのですが、いかがでしたか。

お陰さまで好評だったと思います。指揮をお願いした現田さん、岩村さん、ゲストコンマス三浦さん、水

野さんそれぞれの指導者の熱意、会場の雰囲気、お客さんがそこそこ入ってくれたことでもあります。ステージの皆さんの熱気・緊張感が客席に感動を届けたものと思います。

チケットの販売期間が短く友人知人に押し売りもかなりしたのですが、奏者の数では普段接するオーケストラの規模とも違っていたこともあり、アメリカものに相応しい大編成の迫力も喜んでもらえたのではないのでしょうか。冒頭のバーバーの「アダージオ」は熱演以上だったと思います。

4. 実行委員長としてこのような大きな大会を限られた予算、時間と人数で準備するのは大変だったと思うのですが、小磯さんや実行委員の皆さんの感想と、来年以降に全国フェスティバルをやられる大会関係者に一言アドバイスを。

アドバイスとはおこがましいことですが、舞台ものは何でもプロアマを問わず裏方がある成り立っているものだと思います。ステージに乗ることは誰でもその気になればできますが、舞台を下で支えることは容易ではありません。舞台の上と下と客席が一体となつての達成感・感動には理屈はいらないでしょう。

予算の点では、国県市の行政・企業メセナ双方から財政難・不景気に加えて神奈川県、横浜市とも首長が選挙で変わってしまい、渉外・予算折衝の面では苦労しました。スタッフ全員が金が足りない分、汗と知恵で埋めてくれました。

「もう一ヶ月期間があれば」「もう一回やらせてもらえば」という言い訳はきりがありません。それぞれのやり方、持ち味を生かしてもらえさえすればよいのでは……。

アマチュアのステージはその都度出来不出来はまちまちです。前回と同じでは面白くない。思わぬトラブルなども意外と新鮮な売り物かも。ただ、何事も「誠意・精一杯」の努力以外にないのではと思います。

横響創立者の初代常任指揮者小船幸次郎はいつもこう言っていました。

「一生懸命やれば、何でも面白い。
一生懸命やれば、そこそこのことはできる。
一生懸命やれば、必ず誰かが助けてくれる。」

5. 最後に何かございましたらどうぞ。

新しい人との出会い、新しいこととの出会いは人生を豊にしてくれます。「みんなで収穫を楽しむ」が文化の基本ではないでしょうか。この大会の益々の充実発展を期待します。

また大阪で会いましょう！

今日はお疲れのところありがとうございました。

31th Japan Amateur Orchestra Festival in YOKOHAMA

— みなとみらいの熱き3日間 《パートI》 —



今年もやってきました。……ようこそ横浜へ！



素晴らしい歓迎演奏で大会を盛り上げます。



楽器のリペアや販売もありました。



音楽の輪があっという間に広がります。



連絡にはハンドマイク。隅々まで行き届きます。



特殊楽器満載のグローフェ「グランド・キャニオン」



みんなが揃えばもちろん宴！新顔・常連関係なし。



Vn・Vaパートは立食パーティの雰囲気。

31th Japan Amateur Orchestra Festival in YOKOHAMA

— みなとみらいの熱き3日間 《パートⅡ》 —



お弁当配布も大切なお仕事。美味しかったです。



弦楽器のセクション練習。細かい指示がされています。



運営協議会。多くの議題が討議されています。



指揮者とコンマスの意志疎通も大事なですね。



初めて見る楽器と楽譜に群がる弦楽器奏者たち。



今日はどこに行こうか？やっぱり中華街？



高円宮妃殿下を新総裁に迎えるのレセプション。



指揮者からVc奏者に？見事な演奏を披露した現田先生。

31th Japan Amateur Orchestra Festival in YOKOHAMA

— みなとみらいの熱き3日間 《パートⅢ》 —



練習はなかなか肩が凝るものなんです。



コンマスのお二人。楽器の話題で盛り上がっています。



恒例の舞台裏記念撮影。本番前の緊張も解けます。



まずは岩村先生。蝶ネクタイ、曲がってないかな？



演奏後、参加者への労い。笑顔の握手が嬉しいです。



現田先生は笑顔で登場。舞台上でみんなが待っています。



グローフェ 組曲「グランドキャニオン」。金管炸裂！



コーブランド「交響曲第3番」。楽章毎に高まる興奮！



《Bオケ》

ファーディ・グローフェ作曲 組曲「グランド・キャニオン」
指揮：岩村 力先生

フェスティバルは始めてで、この曲も初めて取り組む曲でした。ですが、短い時間で本当によく仕上がったと思います。皆さんのやる気が姿勢に表れていました。とても真摯な態度に感じられました。連携プレーも大変だったと思いますが、なんとなくこなすのですから、優秀な人たちが揃っていたのでしょう。時間が経ってきたらみんなが打ち解けてきて、そうしたら音が変わりましたね。やらなかったことまでできるようになって……。可能性を感じました。これから地元での活動も協力し合って頑張ってください。そして、いい演奏を聞くことも勉強ですよ。



《Aオケ》

アーロン・コーブランド作曲 交響曲第3番
指揮：現田 茂夫先生

JAO横浜大会の御盛会、おめでとうございます。
私が担当致しましたコーブランドの3番はなかなかの大曲でしたが、短期間の練習にもかかわらず、皆さん本当によくまとまってくださいました。
私自身が、プレーヤーとして参加したこともあるこの大会に指揮者として皆さんと一緒に演奏できたことを、こころから嬉しく思っています。
これからのJAOの益々の発展を、こころよりお祈り申し上げます。

特別企画?! 特殊楽器インタビュー!



ワグネル・ソサィエティOBオーケストラ 園田陽子さん

(写真上) これはウィンドマシーンという楽器です。あまり使われない楽器です。布キレの摩擦の音で風の音を出して回転の速さで音の変化をだします。

(写真左) サンダーシート、あるいはライトニングマシーンという楽器です。ブリキが何かの金属の1枚板で、ゆるるかバスドラムのパチで叩いて音を出します。雷の音を表現します。

*サンダーシートは本番ではたった1回しか出番がありませんでした。ちゃんと見れましたか?



31th Japan Amateur Orchestra Festival in YOKOHAMA

— みなとみらいの熱き3日間 《参加者たちの声》 —



(前左) 横浜交響楽団 Va 佐藤聡子さん
大会が無事に終わってくれるように願っています。

(前右) 横浜交響楽団 Va 泉 国寿さん
1日にメールが100件を越えている時もありまして、なかなか大変でした。

(後左) 横浜交響楽団 Va 和田令子さん
楽譜の回収係なので、大会が終わってからが大変です。

(後右) 横浜交響楽団 Va 阿部沙織さん
今回で2回目の参加で運営スタッフに加わりました。大変でした。

* 運営スタッフがしていた赤いバンダナ。枚数の対応もでき、サイズも気にせず使えるとの事で採用になったそうです。運営スタッフの皆様、本当にありがとうございました。



(右) 刈谷市民管弦楽団 Vn 内海秀子さん (Aオケ)
2回目の参加です。現代曲は初めてですが、とても楽しく出来て充実した3日間を過ごせました。三浦先生には弦分奏までして頂いて嬉しかったです。

(中央) 刈谷市民管弦楽団 Vn 鶴見智枝さん (Aオケ)
今回で8回目の参加になります。コーブランドはもう2度とできない曲だと思うので、とても貴重な経験になりました。宴会も充分楽しめました。

(左) 吹田市交響楽団 Vn 水谷光見さん (Aオケ)
今回が初参加です。大会は知っていましたが無関係だと思っていましたが、同じパートの人に誘われて参加しました。プロ並みの人たちがばかりでついていくのが大変です。

* 練習も宴会も充実していたようです。昼食時に失礼しました。



アマデウス・アンサンブル・オーケストラ

FI 小田切知恵さん (Aオケ)

前は名古屋でのプロコフィエフのロミオとジュリエットに参加しました。今回は2回目なので友達も知り合いもいて、楽しい雰囲気でした。でも曲が難しいので緊張しながら吹いています。所属団体では大編成での曲はないので、たくさん練習してきました。

* Aオケでトップを吹かれていました。練習の成果もあり、ゴールドの楽器がひとときわ輝いていました。



戸田交響楽団 Va 内田智生さん (Aオケ)

【初参加とのこと。感想は?】

転動もないものですから、埼玉から出ることもないので、全国の方々と一緒に演奏できるというのは、非常にいい経験になりました。みんなと一緒に音楽をつくりあげていければいいと思います。指揮者の先生もいろいろ指示を出してくれるので、とてもやりやすいです。曲目もとても難しいですが、頑張ります。

* 初参加で少し緊張気味? 来年もぜひ参加してください。

* は編集部よりのひとこと。ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。
来年の大阪大会で運営スタッフが某球団の模様のTシャツを着ていないことを祈ります。(G党の編集部員より)

第7回 BDLO 研修旅行

「第7回BDLO研修旅行」

我孫子市民フィルハーモニー管弦楽団

石川 八谷

今回のキャンプ期間は自分の属するオーケストラの定期演奏会と重なったため、当初は参加できないと考えていた。しかし、親しくなったBDLOの人たちと新年の挨拶状を交わす中に、今回の指揮者は3年前忘れがたいブラームスの交響曲一番を指揮されたプロイメケ教授であることを知り、彼の指揮のブルックナー7番の機会を失うのはなんとも惜しいと思い始めた。また、初めてのキャンプ参加以来、ノミネーション友達であるチェロのネディングーさんにキャンプ後はご自宅に招待するという思いがけない誘いがあり、活動の母体であるオーケストラの仲間への後ろめたい気持ちを押し切って参加の申し込となった。ところが、その後3月に米、英によるイラク攻撃、4月から5月にかけて新型コロナウイルス SARS の流行拡大と渡航を再考しなければならないような状況が続いた。特に、後者については自分が感染する恐れもさることながら、患者がいる国から出国して迷惑をかけるようなことをしたくない。幸い、5月20日ごろ、日本に患者は出ないと確信できる状況になり、ようやくキャンセルを思い止まることができた。

6月6日 朝から午後2時ごろまで初参加の太田さん、津和さんと一緒にハイデルブルクを観光したあと、4時半ごろキャンプ地ヴァイカースハイムのムジークハウスに到着。

4回目で勝手知る建物である。昨年と変わった様子はない。6時から夕食。食堂に下りてゆくと次々に顔見知りの人たちと再会し、握手を交わす。コンラディご夫妻、ゴングダさん、スザンナさん、ヴィオラのコルネリアさん、チェロのヘッキングさん、ネディングーさん、ホルンのヨッヘンさん、フルートのエリカさん、イリーナ講師、ヒルミ講師……、これまでの日本人参加者に顔なじみの皆さんはお元気そうである。但し、幹事役のフラオケさんはスキーで捻挫したらしく松葉杖をひく痛々しい姿。食べ物も昨年と全く同じ。ドイツ語が飛び交う中で、これを食べると一気に1年の空白が消え、キャンプの人になる。

7時からのオーケストラ総練習の会場は市立ホール。ムジークハウスの北方にあり、体育館の構造の建物である。直線距離にしたら2kmばかりなのに、タウバー川を越えた所にあるので、4年前は大回りをしなければならず、急ぎ足でも15分ほどかかった。今はムジークハウスのすぐ側の川幅が狭くなった所に木橋ができていて、そこを渡り、草原のあぜ道を歩いてゆくと数分で到着できる。

今回の参加者は名簿リストで数えると108名。これまでの経験したキャンプの中で一番人数が多い。約半数の人が昨年も参加した人。参加国別に見ると、ドイツ96人、オランダ7人、日本5人である。年齢構成の詳細は分からないが、おそらく、50歳以上の人70%ぐらいになるのではないと思われる。毎回お見かけするセカンドヴァイオリンの女性のベルツナーさんは86歳。最古参者としてキャンプの最終日、本番が始まる前のセレモニーで表彰され



さあキャンプの始まりです

ていた。最年少は中学生と思われるセカンドヴァイオリンのシモン・キールスベル君。家族一緒に参加でお父さんがセカンドヴァイオリン、お母さんはヴィオラである。夫婦で参加のペアが5組みられる。この人たちもやがては子供をつれて参加するのもかも知れない。家庭で音楽を学び、演奏を楽しむという伝統を垣間見る思いがする。緊張の中にもどこか和やかな雰囲気があり、リラックスして練習ができる。

ヴィオラブルトを組むのは昨年と同じシュミッツさん。頂いた手紙によるとケルンで最も古く、大きい聖マリア教会のオルガン奏者を17年間勤めたという経歴の方である。

キャンプの初日は午後7時から9時までの総練習。二日目、三日目は午前9時から午後9時までの練習。弦楽器5部と木管、金管に分かれ、それぞれプロの講師の指導で練習する分奏と総練習を繰り返し、4日目、昼までの総練習で練習が終了する。短い休憩も含めて本番までの練習時間を合計すると総練習が13時間、分奏5時間。無駄がなく実に充実した練習だった。本番前のゲネプロでは、演奏中にゾクゾクしてくるくらいの仕上がりになっていた。本番も私が参加したキャンプの中では最も良いできと思える演奏であり、数十人程度の少ないお客ではあったけれども熱烈な賞賛の拍手を浴び、指揮をされたプロイメケ教授ばかりでなく演奏した人々の表情にも満足感と喜びが溢れていた。

ネディングーさんはドイツの南西部フライブルクの南方約70kmのスイス国境沿いにある小さな街シュタイネンに住んでいる。パーゼルまではわずか14km。6月9日、本番が終わると直ぐ、彼の運転する車でヴァイカースハイムを出発し、約6時間かけてお宅に到着。以降、この日を含め、帰国する14日の朝まで5泊お世話になった。

奥さんと二人暮らしのお宅。猫が一匹同居。家は周囲が静かな住宅地にあり、地下室、1階、屋根裏2階の3層構造。家の裏側に200坪ほどの広い庭があり、色取り取りの花が咲く。庭の向こう側の林から野生の鹿が降りてくることもあるという。庭端に大きなクルミの大木があり、木陰をつくる。昼食はそこに置いてあるテーブルでご馳走になった。庭の中央には小川が流れ、傍には丁度見ごろの花が咲いて



チェロのネディンガーさんと筆者

いる蓮池がある。池には金魚が泳ぎ、田螺も居る。4種類ほどのトンボが池の周りを飛び回る。また、周囲の木にはネディンガーさんが作った鳥の巣がいくつもあり、夕食、朝食をご馳走になる1階の居間に通じるテラスから居ながらにしてバード・ウォッチングができる。自然と共にある住居はとても居心地が良い。滞在した4日の中、1日はネディンガーさんの家に留まり、彼と二重奏をしたり、奥さん得意の料理をご馳走なったりして過ごしたが、他の3日は彼の車で名所を案内してもらった。シュタイネンにある世界各地から集めた鳥の公園から始まり、バーゼル市内、黒い森山岳道路、シャフハウゼンのライン滝、フライブルク市内等々、そのコースは走行距離にしたら数百kmに及んだと思われる。生涯忘れることができない思い出一杯の滞在をさせて頂いたネディンガーご夫妻のご親切にお別れのときは感謝の念で胸が詰まり言葉にならなかった。いつか日本においで頂き、お礼をする機会があることを願っている。

「第7回BDLO研修旅行に参加して」

大阪市民管弦楽団 津和 久子

たった今届いた、ヴァイカースハイムでの演奏会のCDを聞きながらこの原稿を書いています。CDを聞いていると、全員が一つの心で演奏した感動的なゲネプロと本番、そして4日間の楽しく充実した時間がよみがえってきます。

到着して最初の練習は、セカンドVnでは誰とブルトを組んで、どこに座るかのお互いの交渉から始まりました。ある青年は、女性参加者の中で一番若くてかわいいスザンネとブルトを組みたくて、しつこくアタック。しかし断られて、彼女は私の隣に座りたいと申し出てくれ、私はスザンネと弾くことになりました。場所取りが終わった後、眺めてみるとセカンドは年配の人が多く、半数以上が1人で1つの譜面台を使っていて、ブルトも何もあったものではありませんでした。セカンドパートは年齢幅が広く、最年少は16才の少年がお父さんと一緒に参加してバリバリ弾いていましたし、最高齢は86才の女性。いつも笑顔で人と接し、心から演奏を楽しんでおられる姿は私の将来の目標になりました。パート練習ではセカンドトップを弾いてくださるボーイッシュで魅力的なイリーナ先生が情熱的に指導して下さり、先生のお手本通りに弾きたいという皆の意欲と集中力で、バラバラだった難しい所も、みんなまで1つの音を出せるようになって行きました。

それにしても音楽があれば言葉はいらないのですね。私

とスザンネはお互いに苦手な所を助け合う協力態勢が自然と出来て、長年一緒にオーケストラを楽しむ旧友のようでした。2人とも落ちて、顔を見合わせて笑う事もしばしばでしたが。2日目の練習で、ボーイングがバラバラの所があったので、先の失恋青年に正しいボーイングを尋ねたら、「弾きたいように弾いてよい」との返事。まあ、そんなに自暴自棄にならなくてもいいのに……その頃から私は日本で弾いている時の緊張と違って、のびのびと演奏できる空気が漂っているのを感じるようになりました。この空気は日本では経験したことのないものでした。これは悠々たる大きな指揮ぶり、私達をぐいぐい引っ張ってくださる指揮者のプロイメケさんの力なのでしょうか。何しろそのお姿が余りに素敵なので、私など見とれてしまって楽譜から目を離して弾いていたら、一段間違っただけで弾いていました！

3日間の猛練習のあとのゲネプロは素晴らしく、弾きながら感激で涙ぐんでいたのは私1人ではなかったと思います。管のふくよかな明朗さ、弦ののびやかな音色……（今CDを聞いていると苦笑してしまう所もあるけれど）オーケストラ全体の深々とした重厚な響き。希望に満ちた美しい2楽章が終わった時には客席から拍手とブラボーが上がりました。私もその中に一員として参加できたことを本当に夢のように感じています。本番のあと、街の広場のゲストハウスのパラソルの下で、ビールと美味しい食事で深夜まで感動を語り合ったのも本当に幸せなひとときでした。お世話してくださった日本アマチュアオーケストラ連盟の寺部さんやBDLOの方々から感謝の気持ち一杯です。

私も80才を過ぎるまで頑張ることにしますので、どうぞよろしくお願い致します！

「第7回BDLO研修旅行に参加して」

埼玉フィルハーモニー管弦楽団 太田 迪子

地元のアマチュアオーケストラに所属し長年活動しているのに、JAO全国大会は勿論のこと、BDLO研修ツアーにも、これまで一度も参加した事はありませんでした。今年の2月頃ドイツへの研修ツアーのお知らせを、所属アマオケ事務局から受取り、詳細を見て、今年は私も何とか参加してみたいと強く思いました。このような練習形態に魅力を感じたからです。個人的な事情も好都合だったために、余り迷わず申込みました。

決めてからの3ヶ月間はブルックナー7番の練習と、すっかり忘れてしまっていたドイツ語との格闘が始まりました。そして、何年か振りのドイツ、初めて会う方々と一緒に4日間にわたる猛練習、そして観客こそ少ないものの感動もした本番、今振り返ってみると、決して忘れられない本当に輝いていた一時であったと言えます。

誰が参加したか：

JAOからの参加の演奏者は4人。事務局の方一人。演奏者のうち男性二人、女性二人。楽器はバイオリン、ピオラそれぞれ二人でした。今までに何回も参加している方もいましたし、私の様に初めての参加者ももう一人いました。その他にオランダの方がいたようですが、人数などはっきりはわかりません。ドイツ各地からの参加者は、13才の少年から80歳代の女性まで。全体に高齢の方が日本より多く参加している印象です。家族、親子、カップル色々でした。中には60歳からバイオリンを始めたという70歳代の方もいました。



JAO事務局の方と千葉と大阪からの参加者



のどかな風景がひろがる

どこで行われたか：

ドイツ、ヴァイカイスハイム【Weikeisheim】にて。ここは人口800人位の小さな町で、森とぶどう畑に囲まれた農村と言っていいでしょう。住人は農業とワイン造りに従事する人が多いとのこと。お城の入口にある広場の周りには市庁舎、タウバー地方博物館、教会がありました。小さなレストランや居酒屋、郵便局も小さな場所にかたまっておりごんまりとした静かな町でした。歩いていると家畜小屋からの匂いが漂い、干草を積んだ大型のトラックが見えたりもしました。

ドイツの地図を見るとヴェルツブルグの南方向に見つけることができます。こんな所ですが、国際青少年音楽協会の支部があるためか夏には音楽家のたまごが集まり、我々の様に何かの音楽に関するキャンプも行われるようでした。このキャンプは例年同じ場所で行われるとのことでした。日本のアマオケ大会の様に日本全国をまわるといふのは異なります。他の行事で参加していると思われる方も宿舎では一緒でした。

何をどの様に練習したか：

アントン ブルックナー作曲 交響曲第7番

練習は合奏とパート練習が交互に行われました。各パートはトップを弾くのが講師の方でその方が指導も行いました。初日宿舎の入口に張り出されている部屋に荷物を置き、夕食を済ませてから夜の通し練習会場に向かいました。翌日土曜日朝2時間のパート練習。その後合奏。午後合奏とパート練習。夕食後も練習。その繰り返しでした。日曜日も同様。パート練習も半分近くでこれまた丁寧に細かく、段階をおっての練習でした。参加者中でのトップの女性が講師の横に座りあとの人達はぐりと半円形になり、向き合う形でした。練習は和やかで楽しく、私が完全に出来ていないなぁと不安に思っていた箇所は同様に皆にとってもそうであり、ボーイングや音の確認といった、私達がいつもしているような練習でした。弦分奏でなくパート別というのは絶対効率が良い訳で、本来ならばこのような練習ができる余裕が欲しいと思いました。



村の中心の教会



練習風景



宿泊所 音楽の家



GP風景

いくつかの箇所のフィンガリングもここで確認しました。人数のせいでしょうか、音の厚さ重みが素晴らしく、ピオラパートだけの練習でも十分に楽しめた感じがしました。人数は18人はいたと思います。他の弦パートもそれ以上はいたと思います。他のパート練習は別の建物や別の部屋でしていたのでわかりませんが、同じようなものだったと思います。

月曜日午前中に最後の練習とGPが行われました。この日の昼食をはさむ休憩は今までより長く、この時に希望者はお城の見学ツアーに行きました。勿論参加。25人くらい行ったでしょうか。案内の女性が詳しく説明してくれました。城内は素晴らしいものでした。庭園は別の日に個人的に見学をすませておきました。

指揮者および講師について：

指揮者はKarl-Heinz Bloemekeとおっしゃる大きな方で、音楽院の院長先生との事。やわらかくとても響く声の持ち主でした。その声で時々フレーズを歌いながらの指導も楽しく分かりやすくGP後に我々に向かってこのような事を言われました。“練習してきたのだから、技術的なことは忘れて我々のブルックナーを楽しみましょう！”練習中は、誰かがしゃべると“しっ！”と言う合図がどこからともなく聞こえ静かになる。コンマスは若い男性。セカンドトップはロシア出身という40代の女性。ピオラは30代の男性。この講師に何箇所かの質問をしたところ、合奏でその箇所になると大きく振り返り“ほらね！”と言わんばかりにアイコンタクトも忘れず送ってくれて、とてもやりやすい思いがしました。本番より練習が好きな私としては、この練習形態が本当に楽しくそれだけで充分満足でした。チェロの講師は50代の男性。時々横に向きなおして模範演奏をしてくれていました。小さな音でもきれいに響き、私の場所からよく見えたので、その余裕ある演奏姿勢に見とれてしまいました。コンマスが若くそれ程経験がありそうでもなく、このチェロの先生が全体を見まわしているという印象でした。休憩時間に話しかけると、演奏と同様に温かく応えてくださり、“来年は是非友人を連れてきたら……”と。



中央が指揮者ブロイメケ氏

コンサートのこと：

内輪なので正装しなくて良いというものでした。短パンあり、TシャツOK、全く自由な服装でした。最終日の月曜日夕方4時からのコンサートでした。GPと何が違うか？という気もしましたが、コンサートでは50席位の椅子が用意されていて、CD録音の準備もあり、それなりの印象でした。最後には指揮者への花束贈呈、最高齢者の紹介など。JAO一行の旅行ガイドを以前してくれたと言

う日本人の女性が個人的なファンになっていて今回も聞きに来ていたと事務局の方に聞きました。それからWDL0側から我々日本からの参加に対する感謝、歓迎の言葉もありました！ドイツ政府も青少年活動や、文化活動への資金提供を渋り困ったものだが、とに角今回も開くことが出来て感謝だと言うような内容でした。どこの国でも潤沢な経済的援助はそうそう求められるものではない様です。

宿舎と食事のこと：

余計なものはない、しかし清潔で気持ちのよい宿舎でした。ベッドが3つあるところに二人。となりの部屋との間にトイレとシャワーがあり4人で共通に使うようになっていました。ドアがあって共通部分で仕切られているという造りでした。バスタオル、シーツや毛布カバーが畳んでおいてあり、自分たちでカバーをはめる。そして終了後は外して受付に返すと言った風でした。食堂は広く、カフェテリア形式でしたが、食事の内容は質素？で昼には温かい一品がありましたが、あとはハム、チーズが何種類かずつ。パン飲み物、サラダの繰り返しでした。果物はりんご、バナナ、キウイ等がありました。ドイツ各地からの人々も私達に対して、普通の対応でそれがまた心地よく、私にはそれが好ましいと思えました。初めて会う方ばかりでしたが、色んな人達とここでは一緒でした。日本に来る方とも再会を誓ったり、音楽以外の様々な話も出来ました。私達に普通に接してくれたドイツの方々の静かな態度のお蔭で、緊張という言葉を忘れてしまい、ここに長く住んでいたかのような錯覚に陥ってしまったのは、我ながら意外なことでした。

終了後：

演奏会が終わっても打ち上げはなく、三々五々散らばりました。火曜日の朝までが滞在期間だったのですが、半分以上の人々は月曜日に既に帰宅した様子でした。ドイツ国内では宗教行事の降臨祭という休日で、バイエルン州はこの1週間は休暇なのだそうです。このアッサリさを物足りないと思うか、気楽で良いと思うかは個人の趣味によるでしょう。無事終わったので我々もほっとして、その夜は近くのレストランでワインとご馳走をいただきました。あちこちで小さなグループでの祝宴が見受けられました。どこでも静かに話をしながらゆっくり食事を楽しむと言った印象でした。夜9時半頃にやっと暗くなり始める季節なので、精一杯この美しい季節を楽しむということなのでしょう。火曜日の朝食後、私は皆と別れフランクフルト空港へ向かいました。道中楽しく充実していた数日間を思い出しながら、いつかきっとまた参加したいと思ったのはいうまでもありません。



ヴァイカイスハイム城

2004年 第32回 全国アマチュアオーケストラフェスティバル 大阪大会

期間：2004年8月20日(金)～22日(日)

会場：大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

来年2004年度のフェスティバルは大阪で開催いたします。大阪にゆかりの深い指揮者・コンサートマスターをお招きし、演奏者のみなさまと聴衆のみなさまに、大阪大会らしい楽しさを味わっていただけるよう、準備を進めております。どうぞ、ご期待ください。

フェスティバルコンサート(予定)

フェスティバルオーケストラA

指揮者：栗田 博文(東京音楽大学指揮研究科卒業、1995年第1回シベリウス国際指揮者コンクール最高位受賞)

ゲストコンサートマスター：稲庭 達(元大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター、元大阪センチュリー交響楽団コンサートマスター)

曲 目：シベリウス「交響曲第2番 二長調 作品43」

フェスティバルオーケストラB

指揮者：西本 智実(大阪音楽大学音楽学部作曲学科作曲専攻卒業、「ロシア・ポリショイ交響楽団"ミレニウム"」首席指揮者)

ゲストコンサートミストリス：赤松 由夏(大阪音楽大学音楽学部器楽科ヴァイオリン専攻卒業、同大学大学院修了、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団コンサートミストリス)

曲 目：ムソルグスキー(ラヴェル編曲)組曲「展覧会の絵」

フェスティバルオーケストラM(マスターズ)

指揮者：森 悠子(ルーズベルト大学シカゴ音楽院教授、長岡京室内アンサンブル音楽監督)

曲 目：チャイコフスキー「弦楽セレナード八長調作品48」

【ホームページにて、随時、最新情報をご案内いたします。】

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kcpo/AOF2004/>

関西シティフィルハーモニー交響楽団

Kansai City Philharmonic Orchestra

プロフィール

1974年、各大学オーケストラの卒業生を主なメンバーに、関西OB交響楽団の名称で結成。1994年、創団20周年を機に現在の団名に改称。日本でも有数の優れた音響を誇る大阪ザ・シンフォニーホールでの年2回の定期演奏会を初め、活発な演奏活動を行なっています。最近では団員数が100人に迫る勢いとなり、練習場もやや狭く感じられます。

2004年の活動予定

当団は2004年、創団30周年を迎えます。記念すべき行事となる、意欲的な取り組みについてご紹介します。

定期演奏会

第37回定期演奏会

3月21日(土) 大阪ザ・シンフォニーホール

指揮・伊藤 翔

曲目：シューベルト 交響曲第7番「未完成」

ブルックナー 交響曲第9番

第38回定期演奏会

9月26日(日) 大阪ザ・シンフォニーホール

曲目：ベートーヴェン 交響曲第3番「英雄」他



第35回定期演奏会(2003年3月16日)

日本全国
アマチュア
オーケ
街道

私の町
私のオケ

シリーズ
第九回

第32回全国アマチュアオーケストラフェスティバル大阪大会
8月20日(金)～22日(日)
大阪国際会議場「グランキューブ大阪」

現在、当団が中心となり、大阪府下のJAO加盟団体を挙げて、フェスティバル開催の準備に取り組んでいます。大阪にゆかりの深い指揮者・コンサートマスターの先生方をお招きし、参加者・聴衆の皆様にも、大阪らしい大会の楽しさを味わっていただけることを目指しています。全国のJAO加盟団体の皆様にも、8月に大阪でお会いできますことを、心よりお待ちしております。

関西シティフィルハーモニー交響楽団事務局

〒583-0865 大阪府羽曳野市羽曳が丘西1-2-14松田齊方

Tel. 0729-58-4585 Fax. 0729-58-4589

関西シティフィルハーモニー交響楽団ホームページ

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/kcpo/>

AOF大阪大会ホームページ

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/kcpo/AOF2004/>

* 当団のホームページは、クラシック音楽情報センター(<http://www.musicinfo.com>)より、サーバーの無償使用の協力をいただいております

